

まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

96号

2008年3月4日



ときわ台の景観を守る会

ときわ台まちづくり委員会

代表 鈴木博之 近藤洋子

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 藤和マンション 板橋区建築審査会の口頭審問（2月26日）

? 天空率の怪

最近、建築物の高さについて、天空率という計算法を使う例が多いようです。魚眼レンズを反転したような発想で、計算ソフトもあります。しかし、審査請求でもしない限り、計算書は手に入りません。姉齒氏のようにインチキな入力で高さを割り出したとしても、素人には到底わかりません。紛争が起きるのは、殆どが高さの問題なのですから、説明会では天空率の計算書の提出を義務付けるべきでしょう。私達は勿論、提出を求めましたが、なんと口頭審問当日の朝、提出されたのです。

? 見放された板橋区

建築確認を下ろしたのは日本建築センター。天下り機関として名高いそうです。開発審査会と同様、藤和不動産はここにも参加人として入っていました。しかし、口頭審問の日、両者は欠席。あたふた答弁したのは区の職員だけでした。

? お粗末な行政

区長が下した開発許可書には、この処分に不服のあるものは「東京都知事」に6ヶ月以内に異議申し立てをするように書いてありました。ところが是は「板橋区長」の間違いである、都から板橋区に廻されたのです。板橋区はずっと間違った「教示」をしてきたことになります。もっとも行政不服審査を申し入れた区民は少ないのでしょうか。それにしても区長の出した処分を区長が審査するって変ではありませんか。

○ 行政不服審査 改善なるか

朝日新聞二月十九日付朝刊によると、行政が行った処分に対して、不服審査を請求する場合、審査員に関係職員が加わっていたり、不当に長引かせていたり、公正な判断がされていないという現状を反省し、二年後の改正案が国会に提出されるという。

開発審査・建築審査を請求している常盤台住民にとっては、今まさに直面している問題。

この一連の運動の中で、私達は今の世の中が、不透明で、腐敗していて、一部の人たちだけに都合の良いように廻されていることを知ってしまった。審査員は果たして公正に選ばれているのだろうか。良心的な審査員がいるとしても、多数決では無効となるように、アリバイとして任命されているのではないか、等々。

せめて現任の審査委員に良識と公正さを求めたいと思う。

C型肝炎訴訟の原告団をテレビで見ると、過酷な抗議運動を病気の身で必死に続けなければ、こんなに当たり前のことさえ、この国では勝ち取れないと言う現実にも呆れてしまう。

私達の訴えも、本当にムシ口旗を立て、座り込みをし、数で示さなければならぬのだろうか。高齢者の多い私達には無理なことだ。

それでも政界が少し変化し始めると、少しは改善の兆しがあるようだ。子供たちが夢も持てない社会になってしまわぬよう、ウミを出し切らないと・・・

ガードレールを考えよう — 続 —

95号裏面のガードレールにまつわる車のスピード制限についての投稿を読んで思いついたのですが、アメリカでは住宅街の道路に一定の間隔で凸凹を設けて、スピードを出しにくい構造としているところが多くあります。

大体時速10-15km程度に落として通過しないと、ものすごい揺れを感じる構造です。(以下URLご参照) http://www.nippo-c.co.jp/tech_info/general/SG02045_g.html

日本でも一部導入事例がある様ですが、こういうものを常盤台の住宅街に導入すれば、板橋区としても住民に優しい行政として全国向けのニュースバリューもあり、まちづくり委員会としても協力してやれる事では無いでしょうか？

舗装のやり直しとなるので、費用はかなりかかるものと思われませんが、舗装修復工事や地下配管工事等と同時に徐々に導入する等、やりかたによっては上手く出来るのかなと思います。

板橋区も、マンションを作って短期的に人口を増やして税の増収を狙うより、このように街全体の付加価値を上げていけば、それに伴い自然と人口も増え、税収も豊かになっていくといった事に気付いて欲しいところですね。

S・S

Yさん逝く

人はなんでこんなにあっけなくあの世に旅立ってしまうのだろう。

二月十三日早朝、上板一中への通学路を掃きに行ったYさんは、突然箒を落とし、その上に倒れこんでしまった。救急車で運ばれたが、もう意識は戻らなかった。

特に寒波の厳しかった今年、早朝の作業が、八十七歳で糖尿病その他の故障を抱えていたYさんの命を奪うことになったのだろう。

目立たぬように気をつけながら、Yさんの奉仕活動ともボランティアとも括れない無償の行為は、何十年と続いていた。常盤台の五つのクルドサックの一つは、Yさんの手入れでいつも美しく保たれ、全国紙にも紹介されたのだ。

会えばどんなに体調が悪くても滋味あふれるユーモアで私達を楽しませてくれた。その言葉は、人生の深みを感じさせた。

りゆうとした身なりで、背筋をのびし、ステッキをついて歩いていたYさんは、私達の誇りであり、人生の師であり、勲章をほしがったり銅像などを建てたりする俗物とは、生きていたときも死後においても無縁の世界の人である。

牛尾教授ゼミ研修勉強会

のお知らせ

京都龍谷大学牛尾洋也教授のゼミの勉強会が、中央図書館地下の視聴覚室で行われます。

時 三月九日(日)

所 板橋区立中央図書館視聴覚室
(常盤台公園内)

(午前中、街歩き)

一時半

第一部 牛尾教授講演

龍谷大学法学部学生発表

三時

第二部 タカラレーベン紛争

藤和マンション問題

景観ガイドライン

質疑応答

(米倉弁護士参加)

五時終了、の予定

皆さんもぜひご参加ください。

定例会

三月八日(土) 七時

一・二丁目町会事務所